サクシュ琴似川 主な見どころ

緑 川のせせらぎ！自然散策コース（約1.3km）

赤 河川跡を探そう！マニアックコース（約1.0km）

サクシュ琴似川のその先は…？

このあたりがサクシュ琴似川の最下流点です。桑園新川に合流した後、琴似川に通じます。その後新川へと繋がったのち、最後は石狩湾にそそぎます。

⚠大学構内散策におけるルール

北海道大学は、地域に根ざした教育・研究機関を目指し、キャンパスの一部を開放していますが、一部立ち入り禁止などのルールがあります。必ずマップ裏面右上のルールをご一読ください。マナーを守って気持ちよく歩きましょう。

川のせせらぎ！自然散策コース

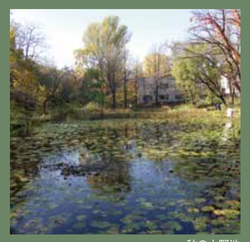
せせらぎを感じながら川沿いを歩くコースです。川に関する見どころはもちろんのこと、大学構内に残された地域本来の自然環境を感じながら歩いてみましょう。

河川跡を探そう！マニアックコース

かつての河川跡やその痕跡を探すマニア向けのコースです。現在は地上を流れている水はありません。
住宅街や人通りの多い道を歩くので、他の通行人や周りの迷惑にならないように気をつけましょう。また、個人宅・個人の所有地には入らないようにしましょう。

① 大野池

サクシュ琴似川はこのあたりで湿地をつくっていました。1963年（昭和38年）から10年をかけて、泥沼となっていた湿地を池として整備しました。発案した当時の工学部長・大野和男教授の名をとって「大野池」と呼ばれるようになり、今日は散策や憩いの場として親しまれています。


秋の大野池
（2023年（令和5年）撮影）

② サクラマスの遡上

1950年代頃にメムと呼ばれる泉が涸れ、サクシュ琴似川の流れが失われてからは、秋になると遡上していたサケ科魚類の姿も失われていました。

その後、導水により2004年（平成16年）に川の流れが再生され、2019年（令和元年）には海から遡上してきたサケ科魚類「サクラマス」の姿が確認されました。【裏面G参照】

サクシュ琴似川に遡上したサクラマス
（2019年（令和元年）中村慎吾氏撮影）

③ メインストリートのわずかなくぼみと屈曲

サクシュ琴似川が横切るところで、メインストリート（中央道路）がわずかに低くなっています。また、メインストリートは一見一直線ですが、実はここでわずかに折れ曲がってもいます。地形的には扇状地と氾濫平野のほぼ境目でもあり、北海道大学の前身である札幌農学校が校地を設けてからは第一農場と第二農場の境目となりました。メインストリートは大学施設の拡充とともに1920年代から整備されていきました。

④ 復元河川

近自然工法的に復元されて、散策路も整備されました。川のほとりからは擦文時代の遺跡が発掘されています。

川に近づける階段が整備されている
（2023年（令和5年）撮影）

⑤ 復元河川（⚠立入禁止）

1980年代の写真（下左）を見ると、川の流路がほとんど埋め立てられています。2004年（平成16年）、近自然工法的に復元されました。現在は道がないため立ち入りはできません。

埋め立てられたサクシュ琴似川

▶▶▶

清流が復活したサクシュ琴似川

⑥ 埋蔵文化財調査センター

大学構内で発掘された遺跡の土器などが収蔵・展示されています。サクシュ琴似川流域が続縄文から擦文、アイヌ文化期にかけて、人びとの生活の場であったことを伝えています。入場無料。

⑦ 百年記念会館付近

湧泉河川の原風景を今に伝えています。【裏面E参照】

⑧ 大学の外構

札幌硬石のブロックを積んだ壁が段差状に連なっています。南から北を眺めると、北に向かってなだらかに低くなっており、扇状地の地形がわかります。

⑨ クラーク像付近 微高地

中央ローンの外周に立つクラーク像の地点はサクシュ琴似川のほとりに比べて小高くなっています。古いサッポロ川の自然堤防帯とみられる微高地です。開拓使の時代、地形を生かして競馬場が設けられました。殖産興業の一環としての近代的な競馬施設です。

路傍のハルニレは、やや湿った場所を好む樹木ですが、ヤチダモより適度の乾きも求める植物です。

赤太線で描かれた楕円：競馬場の位置
引継書類 但旧勧業係ヨリ農商務省へ
育種場・葡萄園・薬草園 明治十五年五月
（北海道立文書館蔵）

⑩ 川の吐き口と中央ローン

北海道大学と札幌市の共同事業によって川が再生されました。藻岩浄水場で発生する洗浄水の上澄水を通水しています。【裏面F参照】

川のほとりには中央ローンと呼ばれる芝生の空間が広がっており、市民や学生らの憩いの場となっています。

ローンと外周の道路との間には高低差があります。外周は古いサッポロ川の自然堤防帯とみられます。サクシュ琴似川は古いサッポロ川の跡をいわば“上書き”したのです。河畔のヤナギの大木は湿生に適した植生を伝えています。

吐き口
（2023年（令和5年）撮影）

Ⅰ 清華亭

北８条通から清華亭へ向かってみましょう。まずは階段を下りて「清華亭遊園」という小さな公園に足を踏み入れることになります。この何気ない高低差も、かつて河川が流れていたヒントのひとつになります。

偕楽園の一角に1880年（明治13年）、貴賓接待所が置かれました。「氷木清華亭」です。明治天皇の行幸に際して休憩所となりました。

北８条通から公園へ降りる階段
（2024年（令和6年）撮影）

清華亭（東南面）／武林盛一（札幌）
1880年（明治13年）（北海道大学附属図書館蔵）

中央ローンを流れる清流サクシ琴似川／昭和3年頃
（北海道大学大学文書館蔵）

偕楽園孵化所 ／ 武林盛一
1878年（明治11年）頃（北海道大学附属図書館蔵）

Ⅱ 偕楽園緑地

ここもくぼ地です。アイヌ語で「ヌプ・サム・メム」（野のかたわらの湧水泉）と呼ばれました。明治の初め、開拓使はこの地形を生かして、北海道内で初となるサケ・マス孵化場などの殖産興業施設を設けました。

日本最初の都市型公園も整えられ、「偕楽園」と名づけられます。一帯はのちに料亭などが設けられ、行楽施設となりました。料亭の経営者によってメムの傍らに「井頭龍神」が祀られ、地域の人びとによって長く大切にされてきましたが、現在は撤去されています。

ありし日の井頭龍神
（2019年（令和元年）撮影）

Ⅲ 鉄西地区界隈の街区

鉄西地区の中でもこのあたりの街区は、それぞれの敷地がところどころ不整形です。地番図はもとより、現地を見てもサクシュ琴似川が街区の中を流れていた痕跡がうかがえます。

河川跡が感じられる不整形な土地
（2023年（令和5年）撮影）

鉄西地区の周辺地図
青塗部に注目すると、不整形な土地形状が読み取れる

Ⅳ サクシュ琴似川の水源（⚠立入禁止）

現在、民間マンションの敷地になっているところが、川の源でした。民間の敷地のため、立ち入りはできません。

敷地内は自然地形の名残をとどめる高低差を残した庭園となっており、その周辺には樹林（ハルニレ、ヤチダモなど）も残ります。現在は、自然林と明治以降に望郷種として植えられたであろうケヤキの大木が相まって、豊かな緑を形作っています。

Ⅴ 市道西９丁目中線のクリの木

明治の初め、開拓使はこのあたりに「官園」を設けました。「官園」とは洋式農業を普及させるための試験施設で、のちに「育種場」となりました。このあたりにはクリの木が植えられ、歩道のかたわらに残る大木はその名残とみられます。大木を迂回するように歩道が敷かれています。

クリの木
（2024年（令和6年）撮影）

【協力】（順不同）
札幌建築鑑賞会 https://ameblo.jp/keystonesapporo/
札幌市公文書館 https://www.city.sapporo.jp/kobunshokan/
札幌市埋蔵文化財センター https://www.city.sapporo.jp/kankobunka/maibun/
札幌市博物館活動センター https://www.city.sapporo.jp/museum/
市立函館博物館 http://hakohaku.com/
北海道立文書館 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/
北海道大学 https://www.hokudai.ac.jp/
北海道大学大学文書館 https://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/
北海道大学附属図書館（北方資料データベース） https://www.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/
北海道大学埋蔵文化財調査センター

※二次元コードを読み取ると、各ホームページにアクセスできます。
※このほかにも、取材の際は多くのみなさまにご協力いただきました。心より御礼申し上げます。

【発行】 令和７年（2025年）６月 初版
【制作】 札幌市下水道河川局
事業推進部 河川事業課
TEL:011-818-3414 FAX:011-812-5241
川めぐりマップ 札幌市